



ネットワーク特集に寄せて

執行役員常務

松本 端 午

昨今、産業界ではデジタルトランスフォーメーションが話題に上ることが増えました。デジタルトランスフォーメーションは、元々は2004年にスウェーデンのエリック・ストルターマン教授が提唱したと言われます。業務プロセスのデジタル化が進むにつれ、現実世界と仮想世界が区別なく存在する社会の概念を述べたものですが、現在ではフィンテックやアグリテックなど、デジタル技術をドライバーに新たなサービスやビジネスモデルの開発を進める、デジタルトランスフォーメーションの潮流が高まっています。そして、この考え方が現実感を高めている背景には、急激なコンピュータ資源のクラウド化や、ソフトウェアによる仮想化の進展が存在します。

ネットワークの世界では、5G（第5世代移動通信システム）が2020年のサービス開始へ向けて開発が進んでいますが、この中ではAI（人工知能）やIoTをフルに活用するための情報インフラとしての役割が強く認識されています。

5G時代のネットワークにおいて、富士通は重点的なビジネス領域として五つの領域にアドレスすることを方針としています。それらは、無線アクセス領域では、ネットワークの大容量化、低遅延化、桁違いに多くの同時接続の実現であり、サービスごとに動的に仮想ネットワークを割り付けるネットワークスライシング、更には高速な負荷分散と低遅延を実現するエッジコンピューティングやネットワークワイドなセキュリティの確保に加えて、ネットワークの資源をシェアし、ネットワーク全体を最適化するオーケストレーションです。

ここで重要なことは、富士通が従来からICTのビジョンとして掲げるヒューマンセントリックという価値観に基づき、デジタル（サイバー）の世界と現実（フィジカル）世界との関係を人にとって望ましい状態に維持し、その融合から豊かで夢のある未来をつくるということです。この価値観に基づき、富士通は「つながるサービス」を展開し、世の中に新しい価値を生み出し新しい世界を拓くことを目指しています。

5G時代のネットワークでは、従来のようにAとBをつなぐネットワークから、分散コンピューティングをベースに時間・空間の制約を越えて価値をつなぐ役割に進化することが期待されています。富士通は、このように進化するネットワークを支えるキーコンポーネントとしてVirtuoraシリーズを提供しています。Virtuoraとは、SDN(Software-Defined Networking) やNFV (Network Functions Virtualization) といったネットワーク仮想化を実現するだけでなく、クラウドをベースとしたICT基盤全体を仮想化し、利用者にとって望ましい調和のとれた統合(オーケストレーション)を実現するフレームワークの総称でもあります。Virtuoraには、ブロックチェーンなど仮想・分散DBの

技術なども現在実装を進めています。

本ネットワーク特集では、富士通が考える次世代ネットワークのアーキテクチャーと、それを支える技術開発をベースに、新たなサービス創出の取り組みや、安心・安全なネットワークインフラ構築技術、サービス運用を支えるソリューションなどをご紹介します。

富士通は、5G時代のネットワークを通して、社会の信頼を維持する基盤技術、インフラ、サービスを提供するとともに、AIやロボットなどの最先端技術も、人々が毎日の生活の中で安心して活用できるように磨きをかけ、豊かな未来の実現に総力を挙げて取り組んでまいります。

本特集をご高覧いただくとともに、今後も引き続きご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。